

## 飲み忘れや過量服用を防ぐ服薬支援機器

### ◆高齢者医療における服薬管理の問題

在宅医療が進む中で、高齢者の患者の服薬管理が問題になっている。複数の病気を持っている高齢者は薬の数が増え、副作用を起こしたり、認知機能の低下で服薬を忘れていたりするなど、薬の治療効果が十分得られないケースがある。2016年1月に発足された「日本老年薬学会」でも、高齢者に特有な薬物療法に関する研究や、在宅医療における薬局・薬剤師の在り方に取り組む方針が示された。

一方、日本医師会が17年2月に発表した「かかりつけ医機能と在宅医療についての診療所調査」によると、かかりつけ医が現在実施していて負担が大きいと感じるのは（複数回答）「在宅患者に対する24時間対応」（49.8%）が最も多く、2番目に多いのが「患者に処方されているすべての医薬品の管理」（27.9%）だった。

### ◆見守り支援機能も搭載された服薬支援機器「eお薬さん」

こうしたなか、エーザイは17年1月、IoT機能を搭載した服薬支援機器「eお薬さん」を発売した。一般販売はせず、薬局や医療機関、介護施設などに販売する。09年に、当時ソリューション開発に所属する担当者が、在宅訪問診療に同行した際「独居高齢者では過量服用が心配で抗認知症薬は処方できない」という医師の言葉を聞いて薬の提供だけではなく安全確実に服用できる支援が必要と、開発を決意したという。



「eお薬さん」（サイズは幅40cm、高さ32cm、奥行き18cm）  
写真：エーザイ(株)提供

「eお薬さん」は、1日最大4回の服薬時刻を指定して、1週間分の薬をセットできる。指定時刻になると薬ケースが前方に押し出され、音声と画面表示で服薬を促す。次の指定時刻まで薬ケースの取り出しができないため過量服薬も防げる。通信用機器をつなぐと、専用クラウド上に服薬履歴を記録したり、薬ケースの取り出し状況を家族や薬剤師にメールで知らせたりなど見守り支援機能も備える。

16年7月には日立システムズとクラリオンが「服薬支援クラウドサービス」の共同実証を開始するなどの動きもあり、在宅医療を希望する高齢者の増加により、在宅での服薬管理は今後ますます重要なテーマになると思われる。【秋元真理子】